

- 管 内 後志管内
- 分 類 防犯教室 安全マップ 不審者対応訓練 その他（ ）
- 教育課程 教科（ ）科 道徳 総合的な学習の時間 特別活動
- 校 種 小学校（低） 小学校（中） 小学校（高） 中学校 高等学校
- 取組のポイント

- 関係機関と連携し、専門的な見地からの防犯に関する指導の実施
- 生徒が主体的に防犯について考察するワークショップ形式の演習の実施
- 不審者との遭遇を想定した防犯訓練の実施

取組の実際

ねらい

- 防犯に関する理解を深めるとともに、犯罪に巻き込まれないための危機回避能力を高める。
- 不審者と遭遇した場合における回避や対処の方法について理解を深める。

内 容

1 関係機関（警察署）と連携した専門的な見地からの指導

(1) 犯罪事例の紹介

- ・ 暴行・傷害やインターネットによる犯罪・トラブル、薬物に関する犯罪や性犯罪など、最近の犯罪の傾向や地域の実態を踏まえた説明を受けた。
- ・ 普段の生活においても、犯罪が潜んでいる可能性があり、常に防犯意識を高める必要があることについて理解を深めることができた。



【警察署員による説明の様子】

(2) 実際の犯罪事例を用いた演習の実施

- ・ 犯罪や危険な事案を回避するための行動の在り方について、ワークショップ形式の演習を行った。
- ・ ワorkshopの中で、生徒が危険を回避するための方策などを主体的に考えるとともに、他の生徒とそれぞれの考えを共有することで、危機回避に関する理解を深めることができた。
- ・ 演習の最後に、警察署の講師から、専門的な助言を得た。



【生徒による演習の様子】

2 自身に危険が迫った場面を想定した防犯訓練

(1) 事前指導

- ・ 生徒は、「不審者かも？」や「何かおかしい」と思ったら、まずは近付かず、その場を離れること、近くの大人に連絡したり、民家に逃げ込んだりすること、周囲の異変に気付くためにも、歩きスマホやイヤホンで音楽を聴きながら歩くことを避けることなどを学んだ。

(2) 訓練

- ・ 危険に巻き込まれそうになった場合を想定し、大きな声を出し、助けを求めることを学んだ。
- ・ 「恥ずかしい」や「思い違いだったらどうしよう」という感情より、危険に巻き込まれないことを優先すべきであることを学んだ。
- ・ 万が一、危険に巻き込まれた場合への対処の方法として、簡単な護身術について訓練を受けた。

(3) 事後指導

- ・ 訓練で学んだ内容を振り返るとともに、学習の成果と課題について考えた。

成果と課題

- 関係機関と連携するに当たって、防犯教室・防犯訓練のねらいや指導してほしい内容などを事前に説明することにより、十分にねらいを達成することができた。
- 生徒に対する防犯教室・防犯訓練だけでなく、校内における不審者対応など、教職員を対象とした防犯訓練を充実させる必要がある。